

⑦ 史跡 二階堂政貞屋敷跡と 二階堂氏ゆかりの寺 地福寺



臨済宗建長寺派宝珠山 地福寺



二階堂一族の墓



二階堂出羽守政貞の墓
寺の真向かいにある了全山の頂には、政貞の墓があり、篠窪地区を見守っているようにも見える。



二階堂屋敷跡 (町指定重要文化財)

篠窪の地福寺から南側に広がる台地の一角に、現在は民家になっていて当時の面影を残すものはなにもありませんが、ここにお城があったとか、とりでの跡だとか、前方はお堀であったとか、屋敷跡にはみかげ石で造ったたらいが埋まっているとか、さまざまなのが地元の人々に言い伝えられています。二階堂出羽守政貞がこの地に来て屋敷を構えたのは明徳の頃(1390~1394年)と言われています。屋敷跡南西の低地から発掘された五輪塔は、二階堂一族の墓地と考えられ、現在は地福寺に移されています。

地福寺

宝珠山地福寺は、臨済宗建長寺派の寺院です。開山は貞和3年(1347年)中和等陸で、開基は二階堂政貞です。二階堂氏や地福寺について書かれた『新編相模国風土記稿』によれば、「二階堂氏の祖は隠岐守行村と云い、建保元(1213)年、和田義盛謀反せし時、これを討つて功労ある故に大井の庄をあてがわれた。この頃より二階堂氏伝領して政貞に至り、その後篠窪を屋号とする」とあります。建保元年といえ、源頼朝の没後20年、鎌倉幕府の勢力が源氏から北条氏へと移り変わる時代です。

大井の庄を給与された行村は、鎌倉幕府草創の時から源頼朝の側近のひとりとして幕府に参画した、二階堂山城守行政の二男といわれています。その後、大井の庄の領地の大部分は、霜月騒動(1285年)で幕府に没収されますが、篠窪地区は二階堂氏が伝領し、政貞に引き継がれました。子孫は篠窪を姓として小田原北条氏に仕えたとのことです。

地福寺は、豊かな自然の中で長い間、篠窪を見つめてきた二階堂家ゆかりの寺なのです。